

新年を迎えて

年頭に当たり、謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

昨年は、三月の東日本大震災、そしてその後も相次いだ集中豪雨や台風により日本各地に未曾有の災害がもたらされ、多くの人々の尊い命が失われました。お亡くなりなられた方々の御冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された方々に改めて心よりお見舞いを申し上げます。また、被災地での教育活動支援や、夏休みの福島県児童生徒の受け入れにつきましては、皆様の温かい御理解と御協力のもと、実施したところであります。

さて、今日、社会の激しい変化の中で、我が国の教育は大きな転換期にあり、様々な教育改革が進められています。

京都府教育委員会におきましては、京都府の教育の基本理念や今後推進すべき施策の方向性を示した「京都府教育振興プラン」を策定し、さまざまな施策を実施しているところであります。策定から一年目を迎える本年を、この計画を本格的に展開していく一年と捉え、すべての人々が、人を思いやり共に助け合いながら、生涯にわたって力強く歩み続けることができる人づくりを、着実に進めていく所存であります。

いよいよ本年四月からは、中学校においても新しい学習指導要領が全面实施となります。このため、昨年は、京都市少人数教育の中学校への拡大や小学校への中学校等の教員の派遣による専科教育の充実など、児童生徒の学力の向上や校種間の円滑な接続を積極的に図って参りました。

昨年十二月には、学校・家庭・地域の連携協力の推進などを示した「まなび教育推進プラン」を取りまとめましたが、今後は、このプランの実現に向けた取組を積極的に進めるとともに、京都市専科教育の拡充などによる「幼児期から成人までを見通した教育」、学校・家庭・地域社会の更なる連携協働による「社会総がかりで取り組む教育」を通じて、子どもの学ぶ意欲を高め、質の高い学力を身に付けさせる取組をより一層推進して参ります。

また、昨年開催された国民文化祭では、日頃学んできた能や和歌、人形浄瑠璃を披露するなど、多くの子どもたちがさまざまな形で参加することにより、伝統文化等に対する意識が高まるまたとない機会となりました。すでに高等学校においては、専門家の指導のもと、茶道や華道を本格的に授業に位置づけ、全ての学校で体験授業を実施するなど、全国的にも先進的な取組を進めているところではありますが、国民文化祭での取組が継続したものとなるよう、伝統文化や地域社会のつながりなど、京都の力を最大限に活かした取組を、更に進めて参りたいと考えています。

現在の日本は大震災の復旧・復興に向う一方、円高や世界経済不安といった厳しい社会状況に置かれています。このような時代だからこそ、人を思いやり助け合う心、人と人とのつながりの大切さを、次代を担う子どもたちにしっかりと伝えていく必要があると考えております。

今後とも、市町（組合）教育委員会をはじめ、関係機関と緊密に連携し、府民の皆様への期待と信頼に応えうる教育を着実に推進し、子どもたちが健やかに育ち、次代の力強い担い手に成長していくよう、全力を尽くして参ります。

結びに当たりまして、皆様のますますの御健勝、御多幸をお祈り申し上げますとともに、京都府の教育の更なる発展に向けまして、一層の御理解と御協力をよろしくお願いいたします。